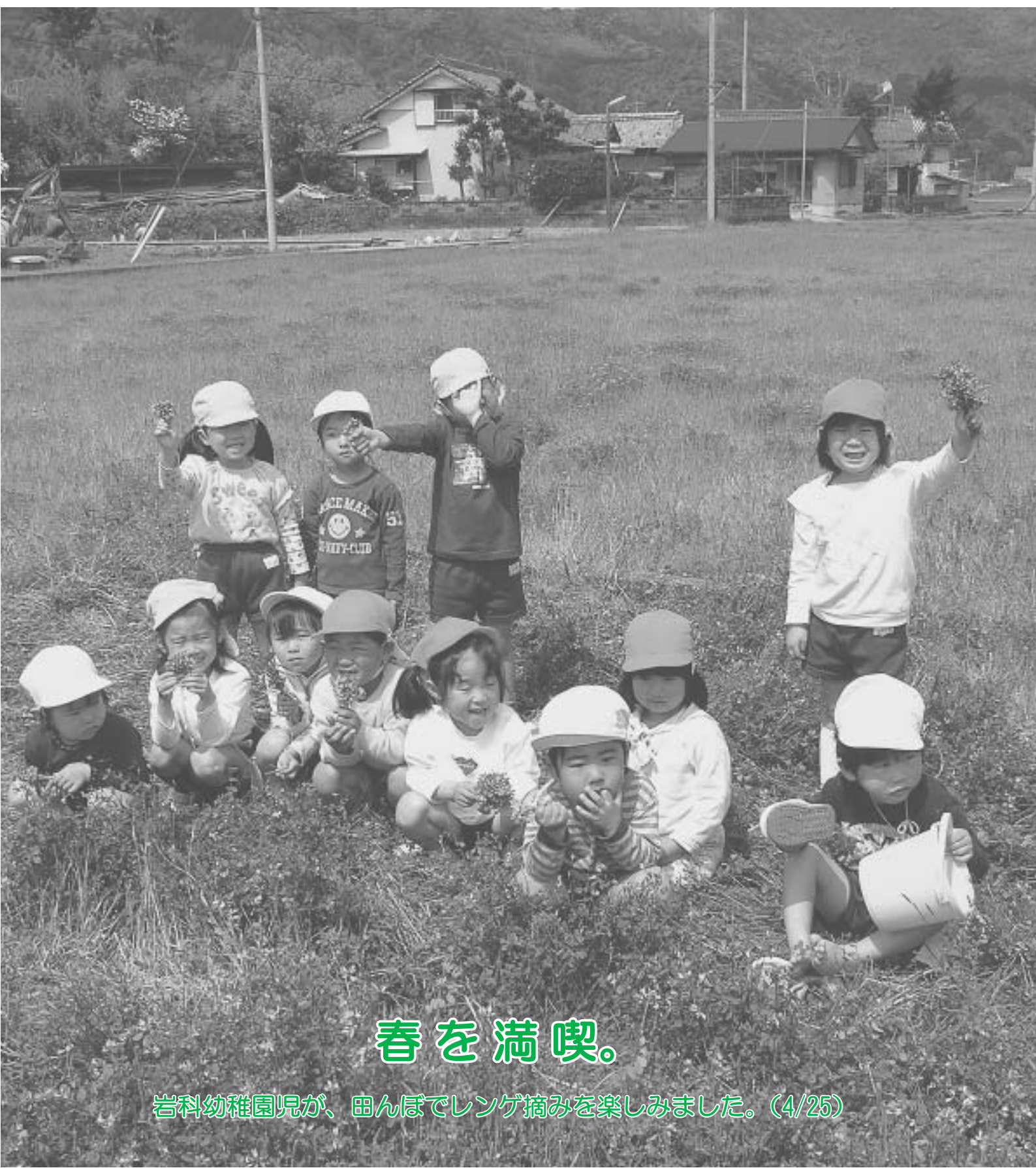


2005  
(平成17年)



# まつざき

5  
No. 492



春を満喫。

岩科幼稚園児が、田んぼでレンゲ摘みを楽しみました。(4/25)

# 町政懇談会開催

町の現状を報告し、これからのまちづくりについて、町民の皆様のご意見やご要望を直接うかがいました。



環境センターにて



石部公民館にて

四月二十二日から二十八日にかけて、町内五箇所の会場で町政懇談会を開催しました。広報まつぎき四月号でお知らせしたように、町では限られた予算の枠組みのなかで、最大限の住民サービスが提供できるように行財政改革に向け、機構改革や事務事業の見直しを進めています。住民の皆さんからまちづくりに対する率直なご意見やご要望を直接町長や担当課長に投げかけていただきたいと計画されました。

各会場では、町の施策や予算について説明が行われたあと、参加者との意見交換が行われました。今回は、三浦地区と松崎地区での主な意見、質問などを紹介します。

## 三浦地区（参加者四十三名）

（問）行政区の再編は考えているのか。

（答）各地区には、その地域のつながりがあり、再編は考えていません。

（問）三浦地区のブロードバンド整備事業について伺いたい。

（答）ブロードバンドの整備に当たっては交換局を設備する必要があるため、基準経費の二分の一を県と町が補助し、残り二分の一を施行業者が負担する方向で話しを進めています。

（問）職員の自宅を仮出張所にするとはどのようなことか。

（答）役場への提出文書や簡単な証明書の請求、料金の支払い等、職員が取り次ぎ対応することで行政サービスの向上を図るものです。

（問）敬老祝金は一律カットでなく、所得などに応じて支払うようにできなかったのか。

（答）所得に応じた支払いなども検討しましたが、廃止することになりました。

（問）少子高齢化が進み、人口が減っているが、今後のコミュニティ活動推進についてどう考えているのか。

（答）人口問題は大変難しい問題です。定住人口が確保されれば、地域のコミュニティ活動等も活発になるのではと予想しており、そのために観光振興を進めていきたいと考えています。

## 松崎地区（参加者四十六名）

（問）松崎海水浴場の現状を改善できないか。

（答）海岸の保護や水質の保全等について、静岡県下田土木事務所と相談しながら対応

していきます。現在海岸に貝殻が目立つのは、新港をしゅんせつした砂を入れたことによるものです。

（問）町村合併で、最初に作ったパンフレットはまったく無駄になったのではないか。

（答）七市町村合併のパンフレットは、皆さんに町村合併とはどんな事か理解していただくために作成されました。今後再び合併の話が出てきた時にもご利用いただけるものです。

（問）緊縮型予算というが、もっと前向きな予算が組めないのか。

（答）町の将来を考え、行政改革の趣旨に沿って事業の見直しを行ったもので、厳しい状況ではありますが、町の将来を見つめた予算となっております。





## 水道事業のあゆみ

松崎町の水道事業は、昭和三十一年に給水人口四千八百人、一日最大給水量七百二十立方メートルで創設の認可を受けて以来、昭和四十九年までに四期の拡張工事を行い、中川地区、岩科地区に給水区域を広げていきました。平成十四年度には中川地区の水源井戸の取水量低下に伴い、新水源を三聖苑横に新設するため平成十五年三月に第五期整備の認可を受け、現在に至っています。

簡易水道事業としては、雲見簡易水道、小杉原簡易水道、池代簡易水道の三事業及び門野飲料水供給施設で運営されています。平成十五年度決算における給水の実績は、給水人口八千六百六十七人、給水戸数三千七百八十四戸となっています。

## 暮らしを支える水道

安全な水の供給は、水道の最も重要な条件です。水道水は人の健康に直接かかわるため、常に安全でなければなりません。町では水道水が水質基準に適合しているかどうかの検査や水源の水質検査などを定期的に行い、安全でおいしい水の供給に努めております。水は限りある貴重な資源です。水道事業へのご理解をお願いいたします。



▲大沢新水源取水ポンプ場

## 大沢新水源供用開始

三聖苑横に整備が進められていた大沢新水源の関連工事がこのほど完成し、水質検査にも合格したことから水源の切替作業が行われました。

新水源の井戸は深さ七十メートル、取水量は二千立方メートル/日で旧水源より約八百二十立方メートル/

日の取水量増加が見込まれています。

新水源整備に伴う工事は、ポンプ場築造工事や水管橋新設工事など四つの工事で施工され総工費は一億七千七百八十二万四千円。財源内訳としては起債が一億四千六百万円、一般財源が三千八百八十二



▲大沢水管橋

万四千円となっています。新水源の水は、新設された水管橋を経由して峰輪配水池に一旦蓄えられた後、中川地区に供給されます。

## 給水装置の管理は？

道路に埋めてある水道管から分かれて各家庭に引き込まれている給水管とこれに直結する蛇口や水止め栓、給湯器などの給水用具をまとめて「給水装置」と呼んでいます。

給水装置は、建物の所有者が設置したもので、所有者の財産です（水道メーターは除く）。従って維持管理は所有者が行い、それにかかる費用は所有者が負担することになります。町指定の水道工事店に連絡し修理してください。

また、最近漏水等により使用水量が著しく増加した事例も見受けられます。水道を使用していない状態でメーターが回っている場合は漏水が考えられます。定期的にメーター確認されることをお勧めします。

山水等の配管を水道の給水管と接続することは禁止されています。ご確認ください。

## 健全な水道事業の経営に向けて

水道事業の経営は、法律によって「事業に必要な経費は、その経営に伴う収入をもって充てること」と定められており、独立採算制を基本としています。

必要な水を継続して供給するために、施設の建設改良費（資本費）と通常業務の管理費用（維持費）が必要になります。なかでも多額の経費を要する施設の建設資金等は長期の借入金（企業債）であり、いずれも利息とともに返済しなければなりません。

現在、町の水道事業もこの借入金の返済額が増加し、会計を圧迫しています。現在の料金体系は、平成十二年度に改定がなされ今日に至っておりますが、今後の事業推進に当たり、料金改定を視野に入れた取り組みが不可欠となっています。詳細につきましては公営企業委員会で協議を重ねていく予定であります。皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。



# 松崎町消防団入団式

## 地域の安全を守る消防団 新年度の体制整う

四月一日（金）午後七時三十分から、環境改善センター文化ホールで、平成十七年度松崎町消防団入団式が挙行されました。

式では、町長の挨拶に続き、新・再入団員等総勢七十一名に辞令が交付され、新入団員を代表して、四分団三小隊の佐藤瑞卓団員（小杉原）が「忠実に消防の義務を遂行することを誓います。」と力強く宣誓しました。

内田団長は、団員を前に、「社会はますます複雑かつ多様化し、団員数の減少や高齢化等、我々消防団をとりまく環境は大変厳しいものがあり、様々な問題を抱えているが、あらゆる災害から町民の生命・財産を護るといふ消防の使命遂行にあたり、町民の付託に応える消防団づくりに精進しよう。」と訓示しました。

### 平成17年度 松崎町消防団役員名簿

平成17年4月1日現在

本部	団長		副団長		部長		班長		団員		小隊計	計	定員
	分団長	小隊	分団長	副分団長	部長	班長	団員	小隊計					
本部	団長	内田 址延	本部部長	菜野 倫克									
	副団長	中村 一夫	本部部長	鈴木 真澄									
	副団長	山田 宗太郎	本部部長	斉藤 辰巳									
	本部部長	土屋 宗三郎	本部部長	小木 曾達也									
	本部部長	竹内 聡	本部部長	船津 光信									
	本部部長	石田 一嘉	本部部長	田口 宏樹									
1分団	玉井 直樹 (北区)	1 石田 登志夫 2 真野 之 3 矢谷 邦彦	1	1 2 6 1 1 3 1 1 3	21 30 8 13 10 15	59	59						
2分団	永谷 茂 (江奈)	1 石田 智 2 伏見 秀政	1	1 1 3 1 1 3	15 20 8 13	34	34						
3分団	馬場 和彦 (峰輪)	1 土屋 秋信 2 船津 武男 3 青木 守	1	1 1 3 1 1 4 1 1 3	8 13 6 12 8 13	39	39						
4分団	松本 保夫 (大沢)	1 山崎 唯和 2 斉藤 稔 3 山本 政弘	1	1 1 3 1 1 3 1 1 3	8 13 8 13 2 7	34	34						
5分団	鈴木 善人 (松尾)	1 稲葉 昇治 2 中村 直弘 3 佐藤 嘉和 4 後藤 育正	1	1 1 3 1 1 3 1 1 3 1 1 3	11 16 8 13 5 10 6 11	51	52						
6分団	高橋 明 (石部)	1 斉藤 惣吉 2 高橋 正志 3 渡辺 惣一	1	1 1 3 1 1 3 1 1 3	5 10 8 13 11 16	40	40						
合計					6	18	27	58	156	269	270		
事務局 松崎町役場総務課 広報防災係 42-1111 (代表)、42-3963 (直通)					職名			氏名					
					総務課長兼防災監			山本 太美雄					
					広報防災係長			高橋 新太郎					
					消防団担当			鈴木 悟					



宣誓する佐藤瑞卓団員（小杉原）



総勢71人に辞令交付



ラッパ隊の演奏

# 中川三聖まつり

四月三日（日）道の駅花の三聖苑を会場に「第二十一回中川三聖まつり」が開催されました。

このイベントは、郷土の三偉人、土屋三余、依田佐二平、依田勉三をたたえるとともに、地域の活性化を図るため、昭和六十年から続けられています。

まつり会場では、中川小学校生徒の唱歌などが披露された他、三聖会堂前で牛原太鼓の演奏が行われました。

舞台周辺には、地場産品の直売コーナーやサービスクーナーが設置され、なまこ壁と桜のツアーデーマーチ参加者や一般の観光客等、多くの人出で賑わいました。

また、今年で開催六十周年を迎えた「大沢桜まつり」会場では、桜（染井吉野）の記念植樹も行われました。



フィナーレの餅撒き



桜まつり60周年記念植樹



中川小学校生徒による唱歌



県警音楽隊の演奏



牛原太鼓の演奏



岩科小学校生徒による「岩科起て」の歌

# 岩科重文まつり

四月二十四日（日）岩科小学校周辺を会場に「第二十一回岩科重文まつり」が開催されました。

岩科地区コミュニティ活動のシンボルである重文岩科学校を中心に、「岩科起て」の精神のもと、地域の活性化を図ろうと始められたイベントも、恒例行事としてすっかり定着しています。

絶好の天気になった当日は、小学校グラウンドの特設ステージで小学生の「岩科起ての歌」や県警音楽隊の演奏、バンド演奏などが披露された他、牛原太鼓の演奏や野点、竹細工や手芸のコーナー、各種サービスクーナーなどが設置され、岩科地区の子どもからお年寄り、観光客などで賑わいました。



# 松崎中学校ゲンジボタル保護ボランティア 「全国子どもホタルレンジャー」優秀賞受賞



が評価されたものです。

一般的に、ホタルの保護というと、幼虫を養殖し、放流するケースが多いなか、ホタルの生息環境を整備する団体は、全国でも珍しいとのこと。

**代表の土屋武彦さん  
(南郷)にお話を伺いました。**

今から八年前に、しろかに橋周辺のホタル生息地が台風で被害にあいました。翌年赴任した松崎中学校で生息地復旧ボランティアを呼びかけたのが、松崎中学校ゲンジボタル保護ボランティアの始まりです。

発足当初、南郷のわさび田にホタルが生息していることから、わさび田を作ろうということになり、那賀川の生息地周辺にわさび田作りを試みました。



しかし、わさびが思ったように生育しないことから、クレソンや芹に植え代えてカワニナを養殖することにしました。昨年は、この養殖池から田んぼの水路まで水路を掘り、水害の被害を受けにくい新たな生息地へホタルを導こうとしました。延べ五百メートルにわたる水路で水路や沢が結ばれ、ホタルが自由に飛び交う空間を創りました。

## 松崎文芸

俳句

棹売りの声遠くあり春の昼

山本武男

妻逝きてよりの不覚や春の風邪

小林忠男

お彼岸や昼を灯して位牌堂

小林一男

春昼や時奏でいる花時計

佐藤享

春昼や珈琲の香と音楽と

細谷金治

指止まり編目はずして春の昼

稲葉文字

メロドラマうつらうつらと春の昼

稲葉菊恵

春昼や老舗に吾子とそば啜る

依田ふじ枝

春暁や今日の目覚めに手を合わす

土屋規矩子

ふつくらと豆の煮上がる春夕べ

吉岡うた子

息止めて見守る交ひ雉かな

夏目和子

春運ぶ雨は細々降りにけり

清水高子

花の道木の間隠れに月の暈

鈴木すみ枝

人寄せて枝垂れ桜は四方に笑む

斎藤みつ子

# まちのびろろ

## ドンツク太鼓塾 卒業公演

三月二十六日（土）環境センター文化ホールで、「ドンツク太鼓塾卒業公演」が開催されました。

六年前に結成されたドンツク太鼓塾ですが、今回をもって「伊豆松崎牛原太鼓」と統合されることになりました。

ドンツク太鼓塾としての最後の公演となったこの日は、二階席まで埋まり、立ち見もでるほどの観客を動員しました。



## 早春の松崎を 歩く

四月二日、三日の両日、松崎小学校をスタート・ゴールに町内の桜並木や名所を巡る「なまこ壁と桜のツーデーマーチ」が開催されました。

両日とも天候に恵まれましたが、残念ながら町内の桜並木はちらほら咲いている程度でした。

参加者は、なまこ壁の町並みや菜の花を楽しみながら早春の松崎を満喫しました。



## 掘り出し物は ありましたか？

四月十日（日）松崎港で「春のピカイチ」が開催されました。

商工会青年部が主催したもので、昨年、商店街の人の流れを調査する目的で開催されましたが、好評だったため、継続して開催することになったものです。

当日は、フリーマーケットや地場産品コーナー等百の出店があり、多くの人出で賑わいました。



## 花 畑

今年の松崎町の桜並木は、気象の関係により十日余り我々住民や観光客を楽しませてくれました。

桜の花は華やかである。

あでやかである。寒風に耐え力を蓄えてきた結果の美しさである。毎年楽しい酒をご馳走してくれる吉野桜に感謝である。

一方、田圃を利用した花

畑は土壌の関係からか、気象の関係からかパツとしない。ワイルドフラワーだけでなく、今年はレングもしかりである。

花咲きの悪さの原因は土壌ではなさそうである。

原因はどこにあるのか、花栽培経験者の皆さんに相談し、栽培方法を更に研究して、今一度素晴らしい田圃を利用した大規模花畑を再現してみたい。

## 町長室からこんにちは ④1

やはり大切な事はじつと耐え、こつこつと努力を重ねる事が肝要であると感じている次第です。

松崎町長

深澤 進



那賀バイパスの桜並木



大規模花畑

# 21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

## 町の人口と世帯

(平成17年4月1日現在)

総人口	8,603人 (-50人)
男	4,097人 (-22人)
女	4,506人 (-28人)
世帯数	3,132戸 (-17戸)
転入	38人
転出	82人
出生	5人
死亡	11人

## 町の交通事故

平成17年4月15日現在

( )内は前年対比

人身事故	11件	(-5)
物損事故	34件	(-2)
死者	0人	(±0)
傷者	19人	(+1)

## 戸籍だより (3月分)

おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
東区	ミズキ 瑞生	男	浅賀 哲親
石部	マヤ 也	女	松本 晃
桜田	ユウカ 優歌	女	矢野 淳あい
伏倉	モモ子 桃	女	山田 耕司
小杉原	サキ 幸	女	加藤 慶一

おくりやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
池代	鈴木 和彦	59	新田 好
江奈3	鈴木 ふく	94	恒 二
金沢	河盛 ミサエ	68	汪
雲見	渡邊 リン子	64	市 郎
峰	山本 早苗	80	田口 要
石部	稲持 徳次	80	歌 子
江奈2	高橋 加津	83	周 司
建久寺	土屋 つや	88	茂 雄
江奈1	石田 豊一	83	次 郎

## 保健師だより

### うつ病は人間の風邪

四月からの新しい職場や環境での緊張した生活から一ヶ月がたち、ゴールデンウィークが終わった頃、「気分が落ち込む」「不安」「役に立たないので辞めたい」という訴えをするようになったら、うつ病を疑います。

うつ病とは、心身のエネルギーが低下した状態のことです。通常のうつ状態との違いは、仕事や日常生活が阻害されるほどかどうか、二週間以上続くかどうか等で識別されます。精神科や心療内科で治療すれば治る病気です。

うつ病は、誰にでも起こり得るところの病気で、特に体のホルモンの変化が起きる五十歳頃は男女を問わずころころにも変化が起こりやすくなってきます。

女性は、更年期障害と片づけてしまいがちですが、うつ病は脳の海馬という部位の血流が悪くなるのが分かっています。この海馬は記憶を司る大切な部位です。で、キチンと薬で治療することが大切です。

一方男性は、女性に比べて人に自分のことをあまり喋らない傾向にあり、内にもつてしまうことで、重症化しやすいそうです。誰かに自分の気持ちや話を話すといいことは、悩みを体から離すという意味合いもあり、こころの健康を保つ上で大変役に立つのです。

## 学校ひろば

(47)

### 松崎高校

☎四二一〇三三

新年度を迎え今年も松崎高校の新たな一年が動き始めています。晴れやかな入学式から対面式、集団宿泊研修、そして何よりも初めての授業と、新生にとっては慌ただしい四月でした。

ました。連携型というのは、既存の市町村立中学校と県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施するものです。

二年生は、中堅学年の自覚のもと、勉学に部活にと励んでいます。特に美術コースでは、版画、絵画、彫刻、美術史など、特色ある専門科目が加わって、充実した学習が行われています。三年生になると、個々の多様なニーズに応じられるよう、多くの選択科目が設定されています。

新しい教育のあり方や連携を考えるため、すでに「西地域教育研究協議会」を設立し、活動を始めています。前年度は、中高交流挨拶運動や松高美術作品の巡回展などの生徒間交流が行われたり、教員間交流として中高合同職員研修会が行われたりしました。今後も連携のよりよいあり方を協議していきたいと考えています。

「求めて学び、耐えて鍛えよ」のスローガンのもと、自己実現に向けて真摯に励む松高生を今年も応援してください。

さて、今後の高等学校のあり方を考える県の長期計画の中で、松崎高校は、松崎、西伊豆、賀茂の三中学校との間で「連携型中高一貫教育」を実施するという案が提出され

